

地域での協働を すすめるための 実践事例集



地域×福祉施設 (大阪府内の取り組み)



地域での協働を すすめるための 実践事例集

社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会

はじめに

いま、制度の狭間の問題をはじめさまざまな地域課題に対応するため、総合的・包括的な相談支援体制の構築や住民主体の地域課題の解決力強化や体制づくりが求められており、「地域」や「社会福祉法人」に大きな期待が寄せられています。

大阪府社協では、平成15年に福祉施設と市町村社協が懇談会を開催し、地域福祉をすすめていくうえでの連携協働の具体化を確認。以後、社会福祉法人と地域(地区福祉委員会や民生委員・児童委員等)がつながりを強化し、地域福祉を具体的にすすめるため、市町村社協が事務局を担う地域貢献委員会(施設連絡会)の組織化を推進してきました。

社会福祉法人による地域での公益的な取り組みが注目される中、地域での多様な協働が促進され、豊かな実践が広がることを目的にこの実践事例集を作成しました。発刊にあたり、改めて取材にご協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会

目次

◆はじめに…3

◆地域貢献委員会(施設連絡会)の取り組み紹介…4

- | | | |
|-----------|-----------|------------|
| ①豊中市 ……4 | ④門真市 ……10 | ⑦藤井寺市 ……16 |
| ②吹田市 ……6 | ⑤交野市 ……12 | ⑧熊取町 ……18 |
| ③寝屋川市 ……8 | ⑥八尾市 ……14 | ⑨岬町 ……20 |

◆地域貢献委員会(施設連絡会)の取り組み概要(H28年度実績)…22

◆さまざまな連携・協働の地域実践 ～「見える化」の工夫～…25

- | |
|-------------------------------------|
| ①府内の地域貢献委員会(施設連絡会)のHP、ブログページ紹介 ……25 |
| ②福祉施設・社協・地域による協働事例 ……26 |

◆各地域の豊かな協働実践の紹介…27

- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| ①防災(大阪狭山市) ……27 | ④就労体験(高槻市) ……28 |
| ②福祉教育(箕面市) ……27 | ⑤認知症カフェ(岸和田市) ……29 |
| ③民生委員・児童委員と施設の連携(泉大津市) ……28 | ⑥子ども食堂(貝塚市) ……29 |

先進事例の視察から具体的なプログラムの開発へ!

—「子どもの居場所づくり」の取り組み

ココがポイント

★視察研修からプログラムの開発へ→具体的なノウハウを学び、すぐに実践に移す。

取り組みのプロセス

豊中市社会福祉施設連絡会では、毎年、さまざまな事業を行っています。

福祉就職フェア&お仕事セミナー
in TOYONAKAの開催

地域貢献活動協力リストの作成

各種研修会の開催

(他市の地域貢献の取り組み / 虐待防止 / 福祉課題を抱える子どもへの支援 など)

▶ 豊中版子どもの居場所づくり地域福祉モデル

小学校区レベル

【子どもたちの居場所】
●一人ぼっちをつくらない
●生活力をつける
●自己肯定感を高める
●自分の役割を感じられる

【実施主体】
校区福祉委員会

【内容】
子ども食堂・フリータイム・学習支援(大学生ボランティア)

民間企業・NPOなどの活動団体レベル

【民間性・専門性を活かした支援】
●子どもの貧困対策
●家庭の経済状況による学力格差の解消

【内容】
学習支援・体験活動

【内容】
子ども食堂・入浴・学習支援

そこで、近年、大きな課題となっている「子どもの貧困」について、豊中市として校区や施設、NPO、企業等がそれぞれに何ができるのかを話し合いました。



平成28年8月に、豊中市内の2つの校区で、**子ども食堂**がプレオープン。

福祉施設として先駆的に子どもの貧困問題に取り組んでいる滋賀県の「カーサ月の輪(幸寿会)」へ市社協と施設連絡会とで視察へ!

施設を会場に「こどもひろば」を開催



会場はデイサービスセンター。視察内容を参考に、第1回を12月、第2回を1月に開催しました。スタッフは、デイの職員、社協職員、大学生のボランティアです。家が遠い子どもは、デイや社協の車で送迎しています。

◀食後には、みんなで宿題をしました。

<工夫・役割分担>

【施設】…会場の提供 管理栄養士が調理を担当
【社協】…広報やボランティアの募集、学校との連携(子どもへの声掛けなど)



おいしそうにごはんを食べている子や楽しく遊んだり勉強している子どもたちを目の当たりにして、施設職員の地域貢献活動に対する意識も高くなってきています。また、施設の“場所”を利用して、地域のなじみの顔が子どもたちを迎えることで、本音が出やすくなり、さらなる課題へのアプローチなど社協としての支援の幅の広がりにもつながっています。

●まとめ●

地域の課題はさまざま。その中でも、「子どもの貧困」という具体的なテーマを決めて、まずは視察、そしてすぐに実践に移しているところが、民間ならではの行動力・迅速性があります。福祉施設が持つ機能や社協や地域が得意なことをお互いに活かして、地域活動をスタートさせ、活動をしながらかの展開、市域全体での取り組みを視野に入れているところがとても参考になります。

交流の積み重ねが 新しい挑戦を生み出す! 吹田しあわせネットワークの取り組み

平成17年6月～ この2つを施設連絡会の活動の柱に掲げてスタート

地区福祉委員会との協働

ココがポイント

顔の見える関係づくりを丁寧に積み重ね! 「続けていくこと」を大切に…

- ★地区福祉委員会への参画
- ★小地域ネットワーク活動等への協力



◀地区福祉委員会のいきいきサロンに協力。ひらがなゲームを楽しみました♪



▶地区福祉委員会と施設連絡会研修交流会。



◀3地区福祉委員会と10施設が連絡会を組織し、親子で車いす体験を開催しました。

他業種施設の交流や研修

地域でさまざまな取り組みが生まれました!

- ★災害支援活動を通じた交流
- ★職員研修を通してスキルアップ



▲東日本大震災への災害ボランティアバス運行(H23~25)。職員間の交流も深まりました。



◀地区福祉委員会とボランティア連絡会にも参加を呼びかけ研修会を実施。

いきいきサロンでかわいい歌声響く♪

隣接する別々の校区にある保育園(認定こども園)と地区福祉委員会が実施するいきいきサロン。園児が歩いて行ける距離だったため、CSWがコーディネート役となって、園児のサロン訪問が実現。何回か重ねるうちにすっかり定例化しました。



民間施設ならではの即応性・柔軟性や、社協ネットワーク+施設ネットワークを活用できることで、取組みの幅も大きく広がります。

平成28年度～

平成16年から府社協・老人施設部会が実施していた“生活困窮者レスキュー事業”(平成27年度～大阪しあわせネットワーク)に、吹田市の施設連全体として参加・協力をしていくことになりました!

吹田しあわせネットワーク

生活困窮者への支援をテーマに、吹田市内の高齢、保育、障がい、救護、病院等の施設、市社協CSW、府社協社会貢献支援員、生活困窮者自立支援センターなど、実務者レベルの担当者が集い、事例検討や社会資源・支援物品等の情報を集めるなど、相談援助を支援するネットワークです。



はじまったばかりの取り組みなので、10年先には形になればいい、という気持ちで、息長く続けていきたいです。

◀吹田しあわせネットワークCSW会議を開催しています。

●まとめ●

社会福祉協議会の組織構成会員である福祉施設(=地域福祉の推進者)が、**自分たちの専門性を活かして「地区福祉委員会と一緒に地域貢献をしていこう!」と集まった会であるということ**を、一番大事にしていることが大きなポイントです。

また、設立当初から「地区福祉委員会との連携・協働」を掲げ、事務局である社協も機会があるごとに(あるいは機会をつくって)、連携・協働を意識した働きかけを行ってきました。

福祉施設にとっては「利用者最優先」であるのは当然のこと。地域貢献への意識や関心はあっても、日々利用者への支援で忙しいなか、何も働きかけがなければ、行動に移すのは難しいことです。地域と施設が交流する機会をつくる、「施設協力一覧」作成など施設にできることの見える化やその更新など、数年かけて丁寧に積み重ねていくことで、連携・協働の取り組みが実践できる関係になっていきます。

各施設で協力し合いながら 生活困窮者支援を!!

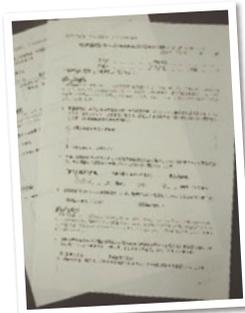
～食品提供や就労・ボランティア体験プログラム
などの取り組み～

ココがポイント

★アンケート調査からプログラム・しくみの開発へ

→各施設が協力できることを把握・共有し、説明会の開催、そして実績を積み重ねる。

取り組みのプロセス



施設名	就労支援関係(職場体験・ボランティア体験の受入)	緊急対応関係(食品支援)
なし	あり	なし
あり	あり	あり
なし	あり	なし
あり	あり	あり
なし	あり	なし
あり	あり	あり
なし	あり	なし
あり	あり	あり



平成28年8月に地域貢献委員会の会員施設へ向けた生活困窮者支援説明会を2部構成で開催。1部は食品・給食支援について、2部は就労支援プログラムについて説明を行いました。

平成27年9月にアンケート調査を実施。それぞれの施設が「就労支援関係(職場体験・ボランティア体験の受入)」「緊急対応関係(食品支援)」などについて協力できることを回答されました。

食品・給食支援では、保存ができる食品を施設から提供を受け、社協で保管して必要な方へ支援。就労支援プログラムでは、就労準備支援の一貫として、福祉施設での職場見学、体験、実習について受入施設、作業内容などについて説明をすることにより、具体的な一歩を踏み出すことができました!!

食品・給食支援および就労支援プログラム



飲料水や缶詰・お菓子など、施設から提供いただいた食品を社協で管理しています!

コミュニケーション能力の向上や、社会参加や就労意欲を高めることを目的として、就労準備支援事業【グループ活動】を3コースに分けて展開しています。

実績を重ねるごとに
協力を申し出てくださる施設も
増えてきていますね!!



▲高橋 俊行課長(左)、吉田 聡子係長(右)



●まとめ●

アンケート調査、説明会を行い、各施設ができることを把握して、取り組みをすすめることが大切になります。加えて、その実績を地域貢献委員会で共有する(魅せる)ことにより、各施設が自分たちにできることを協力しやすくなります。

● 門真市地域福祉連絡会

『多職種協働』で 地域福祉課題の解決に取り組む

ココがポイント

- ★事例検討や社会資源の共有・見える化→分野を越える要支援ケースへの対応
- ★市民への啓発活動→ボランティアフェスティバルや、RUN伴+門真での啓発活動

連絡会の歩み

〈発足当初〜〉

月1回の定例会の開催

事例検討を重ねることで、分野を越えて、連携しなければ解決できない多問題ケースがあることを共有。



〈2年目〜〉

福祉職員向けの研修会を開催

多問題ケースを連携して解決するためには、それぞれの分野の知識が必要になるため、研修会を開催。



〈4年目〉

連絡会のマップ(かどまっぷ)作成

マップを作成し、可視化することにより、お互いの施設・サービス内容を知る。また、地域住民に身近な相談窓口があることを知ってもらう。



「かどまっぷ」があることで、高齢・障がいなど他分野の施設を知るきっかけになりますね!

児童分野の職員Aさん



●発足 / 平成22(2010)年4月

●会員数 / 11施設(分野:高齢4、障がい2、児童2、医療1、市社協1、府社協社会貢献支援員1)

〈6・7年目〜〉

さらなる市民への啓発

連絡会のことをもっと市民に知ってもらうために、ボランティアフェスティバルやRUN伴+門真において、積極的な広報に努める。



RUN伴+門真とは…

RUN伴は、認知症の人や高齢者、家族、支援者、一般の人が少しづつリレーをしながら、1つのタスキをつなぎ、ゴールをめざすイベントで、全国各地で実施されています。

他機関につなぎやすくするために

他機関から相談がある際に、事前にヒアリングした方がよいポイントを話し合い、共通の相談受付表を作成し、活用しています!

◆各分野での問い合わせ内容(分野別)	
児童	①相談・相談先はいるか? (かどまっぷ) → いはい ②お住まいの自治体(区) → 1 ③連絡先 子供の育成: 【 水・木・金・土曜日(日・祝日) 】 - 生活相談係: 【 1・2・3・4・5・6 】 設 - 児童課: 【 水・木・金・土曜日(日・祝日) 】 ④障がい児支援係: 【 1・2・3 】 設 ⑤おたより係: 【 水・木・金・土曜日(日・祝日) 】
障がい	①相談・相談先はいるか? (かどまっぷ) → いはい ②お住まいの自治体(区) → 1 ③連絡先 障がい児支援係: 【 1・2・3 】 設 ④おたより係: 【 水・木・金・土曜日(日・祝日) 】
医療	①相談・相談先はいるか? (かどまっぷ) → いはい ②お住まいの自治体(区) → 1 ③連絡先 障がい児支援係: 【 1・2・3 】 設 ④おたより係: 【 水・木・金・土曜日(日・祝日) 】
市社協	①相談・相談先はいるか? (かどまっぷ) → いはい ②お住まいの自治体(区) → 1 ③連絡先 障がい児支援係: 【 1・2・3 】 設 ④おたより係: 【 水・木・金・土曜日(日・祝日) 】



隅田 智彰さん(左)、長沼 まいさん(右)

現場の職員が中心ですが、特養施設長連絡会・民間保育園協議会も参画しているので、職員が法人へフィードバックしやすいことが大きいですね!!

●まとめ●

現場職員の気づきや声に対して、それを後押しする特養施設長連絡会・民間保育園協議会の存在。この両輪があるからこそ、いろいろな取り組みが実現できるよう。また、社会資源を共有し、見える化することによって、連絡会の施設内でも共有しやすくなるだけでなく、また市民への啓発にもつながっています。

●交野市社会福祉施設地域貢献連絡会

ピンポンが地域と当事者をつなぐ!

～交流の場づくりから障がい者理解の促進へ～

ココがポイント

★当事者も地域活動の担い手に!

→当事者も地域を支える貴重な人財。地域みんなの理解と得意なことを活かせる場づくりが重要です。

★関係者が集う「振り返り」+次のステップに向けた学びの場づくり

→地域福祉活動の「PDCA」サイクル(計画→実行→評価→改善)を意識しましょう。

ピンポンサロンのあゆみ



▲準備が終わると一緒に卓球を楽しみます

ピンポンサロンは校区福祉委員会活動の一環として、平成17年にスタートしました。

福祉委員会と施設との交流がはじまったのは2年前。同じ地域で生活しながらつながりがなく…お互いの“気になる”を社協がつかないことから、「当事者が地域に出るきっかけ」と「住民同士の気軽な交流の場」となっています。



▲月2回のうち1回は喫茶も開催

卓球台の準備と片付けは障がいを持つ利用者さんの役割。地域活動の担い手不足が課題となる中で、利用者さんによるボランティア活動が“継続”の大きなチカラとなり、地域のお祭りやお互いの行事への参加など、さまざまな場面での交流を生み出しています。

卓球台の準備と片付けは障がいを持つ利用者さんの役割。地域活動の担い手不足が課題となる中で、利用者さんによるボランティア活動が“継続”の大きなチカラとなり、地域のお祭りやお互いの行事への参加など、さまざまな場面での交流を生み出しています。

藤が尾小学校区福祉委員会のアクションプラン

- 地域のつながりづくり
- 他団体・施設等との連携
- 人材の発掘



●発足／平成20年(2008年)1月

●会員数／19施設(分野:高齢8、障がい3、保育7、社協1)

(藤が尾小学校区福祉委員会と地域活動支援センターみのりによる実践)

活動の広がり(～次のステップにむけて～)

活動開始から2年の節目に、福祉委員と施設職員、当事者がこれまでの活動をともに振り返る場を設定。

改めて障がい特性や当事者の地域での生活のしづらさを知るとともに、施設職員(専門職)の方からは、地域での相談窓口や関わりのポイント解説が行われました。



当事者の声

- 自分にも地域と交流できる場があることが嬉しい。
- 地域の人々の声かけが自分の世界を広げてくれた。

地域の声

- 施設利用者さんの若い力に助けられている。
- 気になる人のことについて、理解を深めることで地域で一緒に暮らしやすくなる。
- 地域の中で連携しながら、共生できる社会をつくりあげたい。
- もっと地域に喜ばれるピンポンサロンにしていきたい。



◀地域の防災訓練で車いす操作の講座を実施

地域貢献連絡会として、『出前講座』も実施!!

今年度から、高齢・障がい・保育など、各施設がその専門性を発揮した「出前講座」を実施。「介護保険」や「認知症支援」「障がい理解」などをテーマに地域に出向いています。

●まとめ●

地域貢献委員会(施設連絡会)として、共通して取り組む「出前講座」に加えて、小学校区などの小地域単位で「地域」と「福祉施設」がつながるきっかけをつくることで、地域内での顔の見える関係づくりが進んでいます。

その地域に住むみんなの暮らしを支える多様な主体(社協・地区福祉委員・民生委員児童委員・施設職員(専門職)・ボランティアなど)が交わり、お互いの強みや弱みを知り合うことで、安心して暮らし続けることのできるまちづくりに向けた活動の幅が広がります。

生活困窮者の自立支援を 施設で担う!!

～施設間連携を活かした“中間的就労 八尾方式”の試み～

ココがポイント

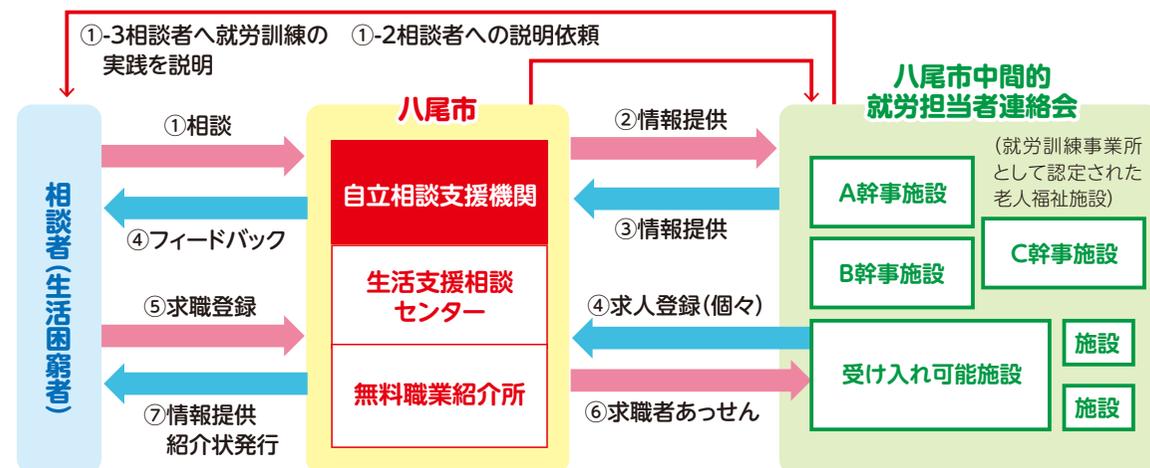
★施設間の良好な関係と相談支援のしくみづくり

- ➔ 八尾市CSW連絡会や中間的就労担当者連絡会を通じ役割ごとに丁寧な情報共有や事例検討、研修会の場を設けることで、市域レベルでの関係づくりや、経験値の蓄積につながります。

中間的就労とは

働きたい! でも、すぐに働くのは不安、自信がない...そんな方に、働くまでの準備期間としてその方にあった個別的就労支援プログラムと一緒に考え、実際の職場で働く経験をしていただく就労のかたち。生活困窮者自立支援制度の「就労訓練事業(中間的就労)」と呼ばれる事業のこと。

八尾市の老人福祉施設における就労訓練事業の利用手順



中間的就労 八尾方式のポイント

施設間連携の特徴

- 『伴走型』による相談支援体制の確立 ➔ 「施設」と「相談者」双方に“安心感”をもたらす
- 中間的就労担当者連絡会の設置と相談事例の共有化 ➔ “市域全体での支援のスキルアップ”につながる

相談者との関わりの特徴

- 就労支援担当者による、その人にあった機関や施設内の仕事内容の検討と、適切な業務の提供。
- 仕事は一人でするのではなく、施設職員とともに行う。

➔ 周りの見守りやサポート体制があることで、本人は安心して仕事ができる

〈社協職員の声〉

ともに相談支援に取り組む施設職員の存在はとても心強く、日頃から安心して相談しあえる関係ができています。(柿木さん)



〈施設職員の声〉

中間的就労担当者連絡会の仲間がいてくれるからこそ、「自信」と「安心感」をもって支援に取り組むことができます。社会福祉法人による地域貢献事業のひとつとして、施設機能を活かした中間的就労には、大きな可能性を感じています。(特別養護老人ホーム 成法苑 小山さん)



●まとめ●

八尾市内では、施設連絡会の立ち上げ以前から施設間の人事交流を行うなど、信頼関係の中で自分たちのノウハウを共有し合い、ともに人材育成に努めてきた経緯があったそうです。施設間の強いつながりをベースに、さまざまな切り口から職員が集い、積極的に学びあう機会をつくるのが、市域での一体感を持った実践を生み出す秘訣のようです。

保育園を会場に連絡会を開催!

～生活困難者支援の勉強会で、事例検討～

ココがポイント

★定例会(2か月に1回)の会場は、会員施設を順番に開催する

→まずは種別を越えた法人・施設同士の相互交流、理解の促進が大事です。

★専門職が集い、事例検討を通じて、スキルアップ

→CSWに行政、社協も加わり、支援のあり方を振り返ることが重要です。

ある日の定例会の様子



10月の定例会は、**こども園**。

かわいい園児さんが興味津々に「なにしにきたの?」と覗き込みます。

日頃の、それぞれの施設の様子を見学・交流させていただくことで、理解も深まります。

この日の定例会では、施設見学のあと、災害時要援護者の受入等に関する概況調査の



実施について確認。自分たちの施設での日ごろの備えや、災害時に受け入れ可能な設備・サービスなどについて情報を出し合うことになりました。

次に、赤い羽根共同募金について、施設としても積極的に街頭募金に協力することを確認しました。

そのあと定例会は、「とっとり委員会」に衣替え。行政から生活困難者支援の現状報告に続き、レスキュー事業に取り組むCSWから相談事例が紹介され、支援のあり方を検討・共有しました。

「とっとり委員会」とは



連絡会の小委員会として位置づけ、支援事例を持ち寄り、生活困難者支援のあり方を勉強することを目的としています。レスキュー事業のCSWや社会貢献支援員、行政、社協も一緒に参加しています。

「とっとり」には、福祉の福という字が「祭壇の徳利に酒を満たした状態」を表していて、心の幸せを意味することにちなみ、利用者一人ひとりの幸せをサポートしていくという思いが込められています。

とっとり委員会での相談内容(参考例)

DV被害を受けている外国籍の女性に対して、生活保護申請や新居への物品支援を行う。施設で中間的就労として受け入れ、現在もパート職員として勤務している。



▲藤井寺市社会福祉施設連絡会通信

●まとめ●

地域貢献委員会(施設連絡会)を立ち上げても「何をしたらいいのか」と活動が停滞してしまう例がこれまでも報告されていますが、定例会を持ち回りで開催することでお互いの理解も深まります。普段やっていることを持ち寄る(≒事例検討)こと、地域の活動に積極的に出向くなど、ひとつずつ丁寧に積み重ねることが大事なようです。

● 熊取町社会福祉施設等地域貢献委員会

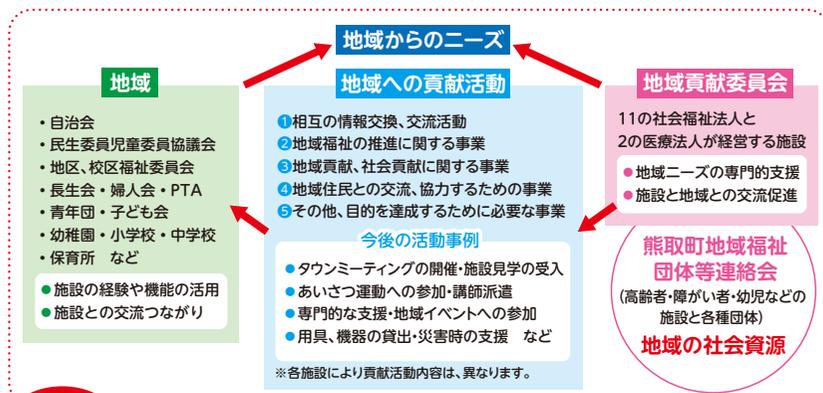
- 発足 / 平成23(2011)年8月
- 会員数 / 13施設(分野:高齢5、障がい6、児童2)

関係者と協力して「福祉講座」や「地域貢献の日」の取り組みを展開!

ココがポイント

- ★ 町内の関係団体と連携して、福祉講座を開催
 - 地域で共通するテーマについて、一緒に企画し学び合うことで理解が広がります。
- ★ 「一斉に取り組む日」を決めてみんなで活動
 - 活動の見える化につながります。

活動計画づくりでは、校区のワークショップに参加



地域貢献委員会の会員は13施設(団体)。さらに、オブザーバーとして、介護者(家族)の会、大阪体育大学健康福祉学部、民生委員児童委員協議会、町健康福祉部の4団体が参加しています。このように、**地域ぐるみの委員会構成**となっていることが特徴です。

みんなでたすけあい



地域と地域貢献委員会の交流は

- 日常的なつながり
- 生活圏でのつながり
- 顔と名前が一致するつながり
- 前向きな交流は
 - 笑顔の交流
 - 何かを生み出す交流
 - 明日につながる交流

地域貢献委員会として、地域福祉活動計画策定の専門部会に委員参画し、策定後の計画発表会でPRをしました。

校区別のワークショップにも地域貢献委員会として施設職員が参加し、地域の課題について意見交換を行いました。



関係団体と共催で「地域貢献福祉講座」や「防災訓練」を開催

地域貢献委員会では平成26年度から住民向けの福祉講座を、さまざまな関係団体と連携して開催しています。

【平成26年度】

ボランティア連絡会と共催し、災害時の移動手段や緊急時の手話、知的障がいのある方の理解等、福祉の理解を広げる内容で実施。



【平成27年度】

行政との共催、ボランティア連絡会の協力で認知症徘徊模擬訓練を開催。



▲福祉まつりで車椅子体験(28年度)

【平成28年度】

行政と熊取町ボランティアセンターと協力して、災害ボランティアセンターの設置運営訓練に、地域貢献委員会として参加しました。また、3月には町と各施設が福祉避難所施設利用に関する協定を締結しました。



毎月第3水曜日は「地域貢献の日」

地域貢献委員会の会員施設では、毎月第3水曜日を「地域貢献の日」と定めて、小学生の登下校の時間にあわせて、地域の方々(福祉委員や民生委員・児童委員)と見守りやあいさつ運動を展開しています。



各学期の始業式から1週間、子どもたちの安全とふれあいを目的に「あいさつ運動」も行っています!

●まとめ●

福祉施設が地域の活動に積極的に参加し、関係団体と日ごろから顔の見える関係をつくることで、地域での理解が深まります。こうした活動を積み重ねる中で、地域の福祉課題の発見や問題解決に向けた新たな取組が生まれてきます。

当事者や専門職、誰もが主役!

～「結」号から生まれた
ゆるやかな場づくり「みさきのわ」～



ココがポイント

★当事者の思い・願いを中心に、専門職やボランティアが
ちょっとサポートした場づくり

→ ゆったりと、そして理解者がいるから安心した和やかな雰囲気が生まれます。

★当事者も専門職も、それぞれに役割がある

→ 自分たちができることを話し合う。役割があるから、やりがいも生まれます。

生活支援型多機能バス「結」号とは…

岬町社会福祉施設等連絡会の会員施設職員や介護者家族の会メンバー、社協職員などが、看護や介護などで困っていてもなかなか自ら相談に出向くことが難しい人のもとへ、「結」号(ワゴン)で出向いて出張相談・支援を行っています。いまでは年間に約130回「結」号を運行し、その支援回数は支援コーディネートを含め延べ約500件の実績があがっています(平成27年度実績)。



「結」号でみなさんに
会いにいきます!

結号の 機能

～「結」号には12個の機能があります～

- BUS in Caféサロン
- 看・介護の最新情報提供・技術のアドバイス
- 引きこもり傾向の人のための「移動型リハサロン」など

平成28年4月開始「みさきのわ」の誕生ヒストリーと今の取り組み

「結」号を運行している中で…



「料理ができるようになって、家族に美味しいもんつくってあげたい」「同じ世代の仲間と交流したい」「出かけるところが少ない」といった声。

「障がいのある方で元料理人がいるよ」



▲まずはみんなで話し合い

「社協の厨房なら、一緒にクッキングして、みんなで交流もできるのでは!？」最初は6人程度でスタート。それぞれに苦手なこと(障がい)があります。仲間がだんだんと増えてきています。



▲ホットドックをつくりました



▲クリスマス会の一コマ



▲ケーキのデコレーションに挑戦!

ボランティアさんが食品衛生の講習を受講! 衛生面にも配慮しています。

買い出し、交流会で使用する飾りつけ、料理指導、配膳、アントンさん(英語教師でニュージーランド出身)のワンポイント英会話…など、それぞれに役割があります。



「今日の言葉は、“Ditto(デイトゥー)私も同じです”って意味だよ」



「この集いが、私は好き(^ ^)」



「Ditto!(デイトゥー)(^ ^)」



〈感想〉

「障がいのある・なしやことばの違いも関係ありません。『みさきのわ』は“垣根のない”居場所、空間です。

『みさきのわ』での活動をきっかけに、みなさんの生活・活動の場、人とのつながりが、さらに広がっていきばうれしいです。」(社協の中家さん)

●まとめ●

地域貢献委員会(施設連絡会)の会員メンバーと社協職員やボランティアなどが、一人ひとりの困りごとに対して、「待つ」のではなく、アウトリーチで「相談に出かける」ことが特徴的です。こうした取り組みを積み重ねてきたからこそ、「もっと〇〇だったらよいのに」という当事者の声をキャッチして、当事者と専門職と一緒にまずは話し合いをする、自分たちが無理せずできることからやってきた、ことが成功の秘訣のようです。

「結」号の個別支援から、当事者がイキイキと輝ける場づくり、専門職もほっこりできる空間をつくっており、当事者の組織化支援、地域支援へと発展した好事例と言えます。

地域貢献委員会(施設連絡会)の取り組み概要 平成28年度実績(予定も含む)

※平成29年1月調査実施

		法人連携の取り組み				見える化			地域の課題解決・地域連携の取り組み												
		人材確保 (就職フェア等)	会員施設 向け 研修会	地域向け 相談会	生活困窮/ 総合相談	職員 レベルの 企画会議	広報・ ニュース等 発行	HPや ブログで 情報発信	講師派遣・ 協力	講座等の 共催・開催	備品等の 貸出	場所の 提供	地域貢献 リスト作成	交流会 見学会	福祉教育	災害時受入や 備蓄品の活用	福祉避難所 /協定書	子どもの 居場所 づくり	就労体験 中間的 就労	専門職 連携事例 検討等	独自の 取り組み
		法人運営	相互理解	アウト リーチ	制度の狭間	相互理解 アイデア出し	会員間の 理解	広く 理解促進	地域活性化			共同利用 施設化	連携促進	理解促進		備え		課題解決		協働	
北 摂	豊中市	○	○	○	その他	○	○	○	その他	その他	その他	その他	H29.4月 完成予定	○	その他	その他	その他	その他	○	○	※1
	池田市		○											○		その他※2	○				
	吹田市		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	※3
	高槻市	○	○	○		○	○	○	○				○(一部)	○	○	○	○			その他	
	茨木市				○																
	摂津市		○		○	○								○		○					
	島本町		○										○	その他 (不定期)		○	その他 (行政と協議中)				
	能勢町		○										○	○	○	○					
豊能町					その他 (必要に応じ)									その他※4							
河 北	枚方市		○																	その他	※5
	寝屋川市		○		○															○	
	門真市	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○				○	
	四條畷市	その他							その他 (検討中)	○											
	交野市		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	※6
河 南	八尾市		○		○	○	その他 (社協プロフ)							○		○	○				※7
	富田林市		○			その他 (メール配信)						その他 (一部)		○			その他 (協議の場設定)				※8
	河内長野市		その他(幹事施設間 で実施している)		○	その他(パンフ& マップ作成)						○				その他(協定締結に向けて調整中)			その他(施設 連以外であり)	※9	
	柏原市		○		○							○				○		○	○	○	※10
	羽曳野市	○														その他(締結に 向けて協議中)					
	藤井寺市		○	○	○	○								○		その他※11		○(会員施設に よって異なる)	○	※12	
	東大阪市	○(就職 フェア)	○														○				
	大阪狭山市				その他(制度の 説明を行う)									○			○		○	その他(実施への 協力依頼)	
泉 州	和泉市												○※13				○			その他 (検討中)	
	泉大津市						その他※14														
	高石市		○	○	○	○									○	○					
	泉南市												○	○	○						
	阪南市															その他※15					
	熊取町			○		○	○								○	○	○				
	岬町					○	○												○		※16

各市町村の独自の取り組み ～取り組み概要の説明編～

※1 豊中市

福祉の魅力発信と福祉人材の掘り起こしを目的に秋に就職フェア、福祉セミナーを開催。

市社協と協力し、会員施設のスペースを使い、子ども食堂を実施している。

※2 池田市

福祉避難所協定締結とともに会員施設で検討。

※3 吹田市

施設連絡会リーフレットの作成。被災地への災害ボランティアバスの運行。吹田市在住の難病児童の海外移植手術を受けるための募金箱設置と資金協力。熊本・大分地震義援金に対する協力、地区福祉委員会やボランティアグループと一緒に街頭募金活動を実施。

※4 豊能町

高齢者や障がい者の交流会への参加協力。

※5 枚方市

市民向けイベントでのPR活動(啓発パネルの掲示と、マスクの配布)。なお、一覧表の各種取り組みは、個々の法人・施設や、各分野別の連絡会組織ごとに多く取り組まれているが、本連絡会独自の取組みとしては行っていない。

※6 交野市

校区福祉委員会の委員として施設職員が加入。地域の防災訓練にて車いす体験や応急手当などの出前講座の協力。あいさつ声かけ運動の取り組み。涼み処(地域開放)の協力。

※7 八尾市

連絡会としてではないが、『人材確保』の就職フェアと『就労体験・中間的就労』の中間的就労は、特別養護老人ホームのみが実施。『場所の提供』、『子どもの居場所づくり』などは、個別に取り組んでいる会員施設がある。『専門職連携・事例検討等』の専門職連携のための取り組みとして、CSWとスマイルサポーターの連携会議がある。

※8 富田林市

地域福祉計画・活動計画策定にむけて地域校区交流会議への参画。

※9 河内長野市

社協が主催する被災地支援の一環としてボランティアワゴン運行に協賛および職員派遣協力をいただいた。

※10 柏原市

生活支援事業名で、緊急的な援助として、相談を受けつけた後に1万円までの現金支給を実施。

※11 藤井寺市

今年度概況調査を実施。次年度以降、本格的に検討していく。

※12 藤井寺市

定例会(2か月に1回)の会場は、会員施設を順番に開催している。「災害時要援護者の受入などに関する概要調査」を実施し、自主防災組織など地域との関わりを強化していく必要性を改めて感じた結果となった。全国社会福祉法人経営者協議会主催による事例発表会において本会が発表。

※13 和泉市

民間保育園といきいきサロンの世代間交流。

※14 泉大津市

各施設のパンフレットを配布して情報提供。

※15 阪南市

各法人の状況をアンケートにより集約。

※16 岬町

生活支援多機能バスの協働運行。

さまざまな連携・協働の地域実践 ～“見える化”の工夫～

府内の地域貢献委員会(施設連絡会)のHP、ブログページ紹介

※QRコードを読み取っていただくと、HPやブログがご覧いただけます。

<p>豊中市社会福祉施設連絡会</p>  <p>社協のHP</p> 	<p>吹田市社会福祉協議会施設連絡会</p>  <p>社協のHP</p>  <p>ブログページ</p> 
<p>高槻市民間社会福祉施設連絡会「あんしんねっとあゆむ」</p>  <p>ブログ Facebook ページ等</p> 	<p>門真市地域福祉連絡会</p>  <p>社協のHP</p> 
<p>交野市社会福祉施設地域貢献連絡会</p>  <p>社協のHP</p>  <p>市民向け出前講座のご案内等</p> 	<p>八尾市社会福祉協議会社会福祉施設連絡会</p>  <p>社協のHP</p> 
<p>柏原市民間社会福祉施設連絡会</p>  <p>社協のHP</p> 	<p>熊取町社会福祉施設等地域貢献委員会</p>  <p>社協のHP</p> 

福祉施設・社協・地域による協働事例

本会の機関紙“福祉おおさか”でこの間(平成25年度～28年度)紹介させていただいた地域貢献委員会(施設連絡会)の取り組み、地域と福祉施設、社協の連携・協働による実践です。QRコードを読み取っていただくと記事をご覧ください。



平成25年 5月号(602号)

「来ない人、来られない人」の支援をテーマに生活支援型多機能バス『結』号が走る。

岬町社会福祉施設等連絡会



平成26年 3月号(612号)

鍵預かります!
緊急時安否確認(かぎ預かり)事業全市の実施へ

寝屋川市社会福祉協議会



平成26年 7月号(616号)

地域・時代のニーズに応える地域貢献委員会

柏原市民間施設連絡会(地域貢献委員会)



平成26年 8月号(617号)

小地域福祉活動の活性化が地域福祉活動計画の大きな柱に!

熊取町社会福祉協議会



平成26年 8月号(617号)

施設と福祉委員会の出会い
新たな地域活動の場づくりへ

岸和田市社会福祉協議会



平成26年 9月号(618号)

生活困窮者支援
福祉に携わる者の役割を考える研修会

交野市社会福祉施設地域貢献連絡会



平成27年 3月号(624号)

認知症当事者が主役の場所
～認知症カフェチャームルの取り組み～

岸和田市



平成27年 9月号(630号)

つながりで拓く地域福祉実践
～地域と施設の連携～

高槻市



平成27年 9月号(630号)

社会福祉法人ができる地域公益活動とは～救護施設の取り組みを通じて考える～

社会福祉法人みなと寮・救護施設りんくうみなど(泉南市)



平成27年 11月号(632号)

母子生活支援施設が取り組む子どもの学習支援と居場所づくり

社会福祉法人 八尾隣保館
八尾母子ホーム/
社会福祉法人 みおつくし福祉会
東さくら園



平成28年 1月号(634号)

頑張っています!
社会福祉法人の地域貢献施設種別を超えてCSWが事例検討!「相談援助技術研修会」を開催



平成28年 2月号(635号)

社会福祉施設と地域福祉活動団体との交流会開催

河内長野市
社会福祉施設連絡会



平成28年 3月号(636号)

頑張っています!社会福祉法人の地域貢献 児童福祉施設から温かい食事を届け見守った事例



平成28年 4月号(637号)

府全域で市町村社協地域貢献委員会情報交換会を初開催!



平成28年 10月号(643号)

施設の「場」を活かした子どもの居場所づくりをめざして

豊中市社協・社会福祉施設連絡会



各地域の豊かな協働実践の紹介

大規模災害時にも施設機能を発揮した支援をめざす!!

大阪狭山市

～被災者の相談にどう寄り添えるのか?～

施設職員、地区福祉委員、民生委員・児童委員、ボランティア、生協、行政、社協職員がともに事例検討を行い、自分たちができる支援のイメージを共有しました。

大阪狭山市社会福祉施設連絡会では、大阪狭山市社協が事務局となって設置する『災害ボランティアネット』に平成26年度から参画し、平時から地域とともに支える仲間との顔の見える関係づくりを進めています。災害ボランティアセンター設置・運営訓練への協力に加えて、大規模災害時に施設機能を活かした要援護者支援を行うため「福祉避難所等の協力に関する協定」も締結しています。



施設・当事者と連携した、福祉教育の取り組み

▼小学校での車イス体験授業

箕面市

箕面市社会福祉協議会は、市内の小学校・中学校・高校における福祉教育に対し、プログラムの相談や、講師・協力者の調整などを行っています。

特徴的な取り組みが、「福祉教育メニューリスト」と「ボランティア講師登録制度」。

福祉や介護、子育てのプロや、当事者が関わることで、子ども達にとって豊かな学びにつながると考え、福祉施設やNPO法人、ボランティアなどの協力により、教員が福祉教育を取り入れやすい仕組みをつくっています。

例えば、高齢者施設や中途障がい者の協力による車イス体験学習では、専門スタッフによる車イスの扱い方の指導とともに、当事者の生活について話を聞く機会を設け、子どもの学習の場としてだけでなく、当事者の活躍の場ともなっています。

また、こころに病のある方が働く福祉事業所での交流授業では、障がい理解を促し、コミュニケーションを学ぶ機会にもなるなど、豊かな福祉観、誰も排除しない地域づくりにつながっています。



民生委員・児童委員が 地域と施設をつなぐ「かけはし」に!!

泉大津市

昭和25年、民生委員・児童委員の発意で設立した和泉乳児院。民生委員・児童委員がさまざまな事業やイベントに参加協力しています。

一年を通して

春



【おやこ広場】

行政が乳児院に委託した地域子育て支援拠点事業に参加しています。



【一日里親事業】

子どもと2人1組になり、親子のように出かけています。帰りにはさみしくて泣き出してしまう子どもも。

秋



【大バザー】

物品集めから値付け作業も行っています。バザー当日は一日里親で知り合った子どもが飛びついてくる姿も見られます。

施設の喫茶スペースを使った、 地域の居場所・就労体験

高槻市

サニースポットは、障がい者の就労の場として「Cafeクローバー」を運営。障がいへの理解が広がることを目的に、喫茶スペースをいかした「高齢者会食事業」や、地元のパン屋さんや、パティシエ、他の福祉施設などの協力による「スイーツバイキング」を開催しています。年明けの「ふるまいぜんざい」は、下校途中の子ども達が立ち寄る恒例行事に。

さらに、ニート・ひきこもりの就労体験の場としても活用されており、障がい者との触れ合いを通して、「頼りにされる」「役割を見つける」ことを体験し、自己肯定感を高め、社会へ出ていく一歩につながっています。

また、平成28年10月に「子ども食堂」をプレ開催し、平成29年夏ごろから市内の施設連絡会と協働して開設するなど、地域のだれもが福祉を学び合い、支え合う地域福祉実践を展開しています。



▲施設利用者が就労体験の一環で、地区福祉委員会のふれあい喫茶へ参加。



▲季節ごとに地域ぐるみのスタンブラリーを開催し子ども達に大人気の。

認知症当事者が主役の居場所!

岸和田市

アムール岸和田では誰もが集える場として、毎月第4土曜日に施設(グループホーム)を開放し、「認知症カフェ(チャムール)」に取り組んでいます。取り組みを始めたきっかけは二つあり、一つは当事者の活躍できる場がほしいと思っていたこと(認知症の人は何もできなくなるなどといった偏見などを軽減したい。)もう一つは住民が地域で集える場がほしいと想っていたことです。

この特徴は、アムール岸和田に入所している認知症当事者や近隣別法人のグループホーム(グループホームやすらぎ)に入所している認知症当事者が中心となって、職員や地域住民、当事者家族の協力を得ながら、カフェを運営している点です。岸和田市社協もアムールの想いに共感し、地域やボランティアとの調整を行うなどの連携を図っています。



認知症当事者(接客者)をチャムールと呼び、99歳の入居者も担当しており、生き活きと注文取りなどを行っています。現在は25名程が来客されています。

世代を超えたつながりを育む! 地域ぐるみの居場所づくり

貝塚市

～施設の「場」を活かしたカフェや子ども食堂の取り組み～

社会福祉法人 建仁会特別養護老人ホーム水間ヶ丘(貝塚市)では、社協ボランティアによる月2回の友愛訪問の受入に加えて、昨年度から地域の誰もがふらっと立ち寄れる「時計台カフェ」(毎月1回午後)を実施。“地域に開かれた福祉施設”として、入所者と地域住民の絆を深めてきました。

そんな中、孤食等のいわゆる子どもの貧困に対し、貝塚で子どもが一人でも立ち寄れる『居場所』づくりとして、10月からカフェと同日の夜の時間帯で子ども食堂をスタート。職員だけでなく、カフェに顔を出してくれていた民生委員・児童委員や地元の大学生によるボランティア協力もあり、今では100人近い地域の方々との交流を図れる世代を超えた貴重な地域の居場所となっています。



M E M O

Blank lined area for writing a memo.

地域での協働をすすめるための実践事例集

平成29(2017)年3月発行

【編集・発行】大阪府社会福祉協議会

〒542-0065 大阪府中央区中寺1-1-54

大阪社会福祉指導センター内

TEL : 06-6762-9473(地域福祉部)

この冊子の作成には、一般財団法人 高津成和会の助成金を活用しています。